BTSJ コーパスにおける二連鎖感動詞類について

On the Two-Chain Interjections in BTSJ-Corpus

劉　伝霞*

LIU Chuanxia*

（摘要）

劉・有元（近刊）によると，日本語母語話者の自然談話に出現する「あ，そう」,「あー，うん」のような二連鎖感動詞類は，真偽判断に関する一つの独立した認知プロセスが対応している，という仮説が提案されている。しかし，仮説の妥当性を高めるためには，可能な限り様々な言語データに適用できるか否かを検証しなければならない。そこで，本稿では『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2018 年版』を対象として，仮説の強化を試みた。

その結果，本コーパスに出現する二連鎖感動詞類にも同じような認知プロセスが仮定できることが明らかになった。

キーワード：BTSJ 日本語自然会話コーパス，二連鎖感動詞類，認知プロセス

（Abstract）

Liu and Arimoto（forthcoming）proposed a hypothesis of the cognitive process for turns composed of two-chain interjections such as “oh, yes” and “uh, yes” are frequently found in the natural discourse of native speakers of Japanese. However, in order to increase the validity of the hypothesis, it must be verified whether it can be applied to as many linguistic data as possible. In this paper, we aim to strengthen the hypothesis with “BTSJ-Japanese Natural Conversation Corpus with Transcripts and Recordings（2018）” as the object of analysis.

As a result, it became clear that a similar cognitive process can be assumed for the two-chain interjections appearing in this corpus.

Keywords: BTSJ-Japanese Natural Conversation Corpus, two-chain interjections, cognitive process

1. はじめに

日本語の感動詞類には,「あのー」,「え」,「えーっと」,「まあ」などの感動詞,「ああ」,「うん」,「うーん」,「はい」などの応答詞（cf. 田窪 1995:1023-1024）のようなことばが含まれる[1]。自然談話においては，これらの感動詞類が単独で現れる（「単独感動詞類」と呼ぶ）場合もあるが，2 つの異なる形式の感動詞類が連続して現れる（「二連鎖感動詞類」と呼ぶ）場合もある。たとえば，次のような談話データがある。

(1)

1X：いや，でも，海外が働くって怖いなあ

2Y：え，会話怖いよね

3X：でも，英語だから，いいじゃん

4Y：<u>あ，まあ</u>

(1)は X，Y 二人の自然談話である。4Y の発話内容の「あ，まあ」は,「二連鎖感動詞類」（アンダーラインで示す）である。しかも，4Y の 1 ターンの発話の

*　山口大学東アジア研究科

Journal of East Asian Identities Vol. 5 March 2020　(pp. 1-10)

中で[2]，それだけが現れている。なぜ，「あ」と「まあ」が連続して発話されるのであろうか。二連鎖感動詞類を構成する感動詞類の組み合わせはどのようになっているのであろうか。また，それぞれの感動詞類は，どのような認知的な機能を担っているのであろうか[3]。

本稿では，『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2018 年版』において，1 ターンに独立して現れる二連鎖感動詞類を対象とし，「前項」（前に位置する感動詞類）と「後項」（後に位置する感動詞類）にはどのような感動詞類が出現しているのかについて考察する。また，劉・有元（近刊）により提案された仮説が，本コーパスの談話データにも適用できるかどうかを検証する[4]。

2. 先行研究

本節では，日本語の感動詞類に関する先行研究から，代表的なものを 4 点挙げる。

まず，田窪(1995:1025)は，「感動詞類は，句の境界に現れるが他の句境界を示す要素（=ポーズや文節末母音の長音化）と異なり，その形式の多様性を処理の種類と対応させてモニタの役目をよりきめ細かいものとすることができる」と指摘している。次に，田窪(2005:16)は，「感動詞類は本来意味を持たず、心的な情報処理の際に非意図的に生じるいわば音声的身振りのようなものとみることが可能である」と記述している。また，田窪(2005:15)は「感動詞類の中でもいいよどみとかフィラー(filler)と呼ばれる場つなぎ語」もあると指摘している。そして，定延(2010:27)は，「フィラー(fillers)とは，伝統文法の「感動詞」とほぼ重なり，実質的内容が希薄で，生起位置が統語的に制限されない語群を指すものとする」としており，また定延(2010:28)は，「「フィラーの観察が人間心的の認知行動の解明に役立つ」という認知科学的な考えの広まり」と指摘している。さらに，定延(2015:3)は，「典型的な感動詞がいわゆる「指示的意味」や「文法的機能」を持たず、人間の何らかの内部状態と結びついている（たとえば感動詞「あ」が気づきや痛みという内部状態と結びついている）ということは広く認められている」と述べている。

これらの研究では，単独感動詞類を対象としたものに限られ，それは「心的な情報処理」，「心的の認知行動」などを反映していると結論付けている。しかし，これらの性質が，二連鎖感動詞類にも当てはまるかどうかについては言及していない。二連鎖感動詞類の場合，話し手の心的操作が 2 つ繋がることになるが，これら 2 つの関連性や繋がり方が問題となることが予測される。本稿では，この問題を解明していく。

3. 対象とする談話データ

本稿で分析対象とする談話データは，以下によるものである。

> 宇佐美まゆみ監修(2018)『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2018 年版』 国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト 「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」 サブ・プロジェクト 「日本語学習者の日本語使用の解明」（リーダー：宇佐美まゆみ）

このコーパスには，合計 333 本，総時間 4746 分 24 秒（約 79 時間）の談話が収集されている。そのうち音声付データは 203 本，2402 分 22 秒（約 40 時間）である。収録された談話は，話者の年齢，性別，話者間の親疎・上下関係などが統制された形で集められている。

本稿では，このコーパス（以下「BTSJ コーパス」と呼ぶ）の中から 23 本，総時間 450 分（約 7.5 時間）の日本語母語話者の自然談話のデータを利用した[5]。BTSJ コーパスの中から，友人関係を持つ 20 代の女性大学生同士の二者間の日本語自然談話を選択し，対象とした[6]。

本稿における BTSJ コーパスの表記の引用について，対象とするデータに現れた記号のみを抜き出して示す。表 1 にデータ番号，発話者記号，（談話）時間数をまとめて示す。BTSJ コーパスでは，発話ごとに「JF041」「JF042」のような発話番号を使用している。「JF」は「Japanese Female」の省略であり，発話者の属性を表す。「JF041」「JF042」は発話者記号である。たとえばデータ番号 01 の談話は，発話者 JF041 と JF042 の自然談話で，談話の長さは 22 分 29 秒である。

表 1　分析対象データの詳細

データ番号	発話者記号	時間数
01	JF041-JF042	0:22:29
02	JF043-JF044	0:23:07
03	JF045-JF046	0:17:54
04	JF047-JF048	0:15:08
05	JF049-JF050	0:17:17
06	JF051-JF052	0:27:15
07	JF053-JF054	0:17:06
08	JF055-JF056	0:26:45
09	JF057-JF058	0:11:41
10	JF059-JF060	0:20:10
11	JF061-JF062	0:14:52
12	JF063-JF064	0:26:14
13	JF065-JF066	0:15:13
14	JF067-JF068	0:17:03
15	JF069-JF070	0:15:58
16	JF071-JF072	0:17:27
17	JF073-JF074	0:15:00
18	JF092-JF093	0:21:47
19	JF094-JF095	0:19:23
20	JF096-JF097	0:22:27
21	JF181-JF182	0:21:17
22	JF184-JF185	0:19:30
23	JF187-JF188	0:20:19

本稿では，発話ごとに「1JF057」「10JF058」のような発話番号を使用する。筆者が追加した最初の 1 桁と 2 桁の数字は，抽出した発話の通し番号である。

また，分析対象のトランスクリプトにおいては，宇佐美(2015:16-17)によれば，次のような記号が用いられている。

表 2　分析対象データの記号凡例

。	1 発話文の終わりにつける。
, ,	発話文の途中に相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。
、	1 発話文および 1 ライン中で、日本語表記の慣例の通りに読点をつける。
,	発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。
“　”	発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を“　”でくくる。
?	疑問文につける。
??	確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
《少し間》	話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
《沈黙 秒数》	1 秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。
=　=	改行される発話と発話の間（ま）が、当該の会話の平均的な間（ま）の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける。
…	文中、文末に関係なく、音声的に言いよどんだように聞こえるものにつける。
〈　〉{〉} 〈　〉{〈}	同時発話されたものは、重なった部分双方を〈　〉でくくり、重ねられた発話には、〈　〉の後に、{〈}をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ 2 つ「, ,」をつける。また重ねた方の発話には、〈　〉の後に、{〉}をつける。
【【　】】	第 1 話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第 2 話者の発話が始まり、結果的に第 1 話者の発話が終了した場合は、「【【　】】」をつける。結果的に終了した第 1 話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【【 をつけ、第 2 話者の発話文の冒頭には 】】をつける。
［　］	その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを［　］に入れて記しておく。
(　)	短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、(　)にくくって入れる。
〈　〉	笑いながら発話したものや笑い等は、〈　〉の中に、〈笑いながら〉、〈2 人で笑い〉などのように説明を記す。
(〈　〉)	相手の発話の途中に、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(〈笑い〉)とする。
#	聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
「　」	トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。

4. 分析

本節では，二連鎖感動詞類を前後の文脈とともに取り上げ，二連鎖感動詞類の分布，及び担っている認知的な特徴を観察してみる。

4.1.「あ，～」「あっ，～」

まず，自然談話に最も頻繁に用いられる「あ」が含まれている二連鎖感動詞類について考察する。(2)を見られたい。

(2)
1JF056 で何だっけ、なんか、サポートとか(えー)、その 1 年間のサポートが(え)6 万なの=【【。
2JF055 】】=なんか、演劇系とか、ない?。
3JF056 あー、演劇系〈かー〉{〈}。
4JF055 〈なんか〉{〉}ね(うん)、あるんだよ、絶対。
5JF055 アメリカとかになっちゃうんだけど、〈たぶん〉{〈}。
6JF056 〈あ、うん〉{〉}。
7JF055 〈アメリカでー〉{〈}、その,,
8JF056 〈あでもやっぱ〉{〉}、アメリカは、演劇って〈感じ〉{〈}。

(2)では，6JF056 に二連鎖感動詞類（アンダーラインで示す）「あ、うん」が現れている。ここでの「あ」と「うん」は，どのような機能をもっているのだろうか。

定延(2010:35)は，「あ」に関しては，「気づきという認知行動と結びつくフィラー」であるとする。また，冨樫(2002b:145）は，「うん」について，「心内の情報処理の段階的なレベルから見ると、単純な情報獲得という操作よりは後の段階での発話と捉えられ、少なくとも「はい」「うん」が単純な情報獲得を示しているのではないことが分かる」と述べている。

ここで(2)を見ると，6JF056 の「あ」は，直前の 5JF055 の発話内容に「気づき」という認知行動を行っているだけではないように考えられる。「あ」の発話時に，発話者 JF056 が，5JF055 の「アメリカとかになっちゃう」という命題（以下「命題」を波線で示す）にアクセスしていると考えられる[7]。そのうえで，発話者 JF056 は「うん」を用いて，アクセスした命題内容に肯定的な判断を行っている。つまり，「あ」と「うん」はそれぞれ別の機能を担う別の標識である。しかし，それぞれ別の機能を担っている「あ」と「うん」が，全体で一つの応答トークンを構成しているのであろう。

同様のことは，「あ、そうそう」の場合でも考えられる[8]。(3)を見られたい。

(3)
1JF043 まだ「地名」の時〈笑いながら〉。
2JF044 暑かったよね〈2 人で軽く笑う〉。
3JF044 〈笑い〉なんかごちそうになったよ。
4JF043 〈笑い〉そうだっけ。
5JF043 ファミレスかなんかで〈2 人笑い〉。
6JF044 ジョナサンで〈笑いながら〉。
7JF043 あ、そうそう〈笑いながら〉。
8JF044 〈笑い〉。
9JF043 でもなんか、あれっきりになっちゃったな。

(3)[9]では，7JF043 に二連鎖感動詞類「あ、そうそう」が現れている。ここでは，「あ」の発話時点で，発話者 JF043 が，6JF044 の発話内容の命題である「ジョナサンで」にアクセスしているように見える。そのうえで，発話者 JF043 が「そうそう」という発話によって，その命題を肯定している。つまり，「そうそう」の発話時点で，発話者は直前の命題に対して真偽判断をしているのである。

次に，前項に「あ」の促音である「あっ」が来る「あっ、そうそうそうそうそうそうそう」を観察してみよう。(4)の談話データを見られたい。

(4)
1JF071 でもそれで…〈笑い〉でもね、なんかね、結構ね、(うん)修論を書いてる時にみんなそうなのかもしれないけど、結構はね、ひ、“あっ、やんなきゃ”って思い始めた途端に、(うん)結構悲壮感たっぷりになって、(〈大きな笑い〉)なんか,,
2JF072 すごい分かる。
3JF071 何やってたんだろうみたいな。
4JF072 〈笑い〉なんかさ、本当にさ、そう、なんか、修士に入ってから、(うん)精神的なアップダウンが【【。
5JF071 】】あっ、そうそうそうそうそうそうそう。
6JF072 うん。
7JF071 〈そうだよね〉{〈}。

(4)では，5JF071 に二連鎖感動詞類の「あっ、そうそうそうそうそうそうそうそう」が現れている。ここでの「そうそうそうそうそうそうそうそう」は，前述のように，発話者 JF071 が，直前の命題である「修士に入ってから、精神的なアップダウンが」に対して肯定の真偽判断を下している。しかし，「あっ」は，どのような機能をもっているのだろうか。

「あっ」については，富樫(2001:39)に，「バッファにない新規情報を獲得したこと」とある。また「これらの談話標識には発音および表記上のヴァリエーションが存在する」と，「「あ」と「あっ」」を「同じ談話標識として扱う」（cf. 富樫 2001:21）とも述べている。要するに，「あっ」は「あ」と同様，その発話時に発話者が，直前の命題にアクセスしていると考えられる。

また，同様の働きをするものとして，「あ、うんうん」，「あ、うんうんうん」，「あ、うんうんうんうん」，「あ、そう」，「あ、そうそう」，「あ、そうそうそう」，「あ、そうそうそうそうそう」，「あっ、そう」がある。

4.2.「あー，～」「うーん，～」

本節では，二連鎖感動詞類の前項に「あ」と「うん」の長音形である「あー」，「うーん」が来るものを観察する。まず，(5)に「あー、そう」の談話データを挙げる。

(5)

1JF064 やっぱ苦しいよね=。
2JF064 =ノルマあったりー, ,
3JF063 まあね。
4JF064 なんか、それなりに対応はしてくれるけど、がんばっても、なんかどうしようもならない時とかも、ある、〈よね〉{〈}。
5JF063 〈うん〉{〉}。
6JF064 でやっぱり、明らかに、企業の資本を増やすためっていうのは、〈見える…〉{〈}。
7JF063 〈あー〉{〉}、そう。
8JF064 なんか、それが、(うん)当たり前なんだろうけど、(うん)なんか、うーん、当たり前なんだけど…。

(5)では，7JF063 に二連鎖感動詞類の「あー、そう」が現れている。前述したように，後項の「そう」の発話時点で，発話者 JF063 は，直前の命題である「明らかに、企業の資本を増やすためっていうのは、見える」に対して肯定の真偽判断を下している。しかし，「あー」はどのような機能を担っているのだろうか。「あ」，「あっ」とは何か相違点があるのだろうか。

冨樫(2002b:145）は，「「あー」は「あっ」とは異なり、情報に対するある程度の理解がないと用いることができない」と述べている。ここで言う「ある程度の理解」とは，おそらく命題の真偽の検討であると考えてよいであろう。ここでは，「あー」の発話時に，発話者 JF063 が，6JF064 の命題の直後から音声を伸ばし，その命題の真偽を検討していると考えられる。

また，同様の働きとして，以下の「うーん、うん」も観察された。次の(6)を見られたい。

(6)

1JF056 ほんと、なんか昨日、世界水泳見てー, ,
2JF055 うん。
3JF056 でなんか、イアン・ソープがさ、なんかインタビューされてて、英語も、わ、わかん、分かんなかった、なんか。
4JF055 えー。
5JF056 あー、がんばんなきゃー。
6JF056 ね、なんか、中高とか全部、アメリカ英語だもんね、習うの。
7JF055 うーん、うん。
8JF056 《少し間》〈笑い〉。

(6)では 7JF055 に二連鎖感動詞類の「うーん、うん」が現れている。後項の「うん」の発話時点で，前述のように，発話者 JF055 は，直前の命題「中高とか全部、アメリカ英語だ、習うの」に肯定の真偽判断を下している。ここでは，肯定の真偽判断を行う前に，「うーん」が先に発話されている。前項の「うーん」の発話時に，発話者 JF055 が，6JF056 の命題の真偽の検討を行っていると考えてよいであろう。

また，「あー、そう」，「うーん、うん」と同様の振る舞いをする感動詞類として，「あー、うん」，「あー、うんうん」，「あー、うんうんうんうん」，「あー、そうそうそうそう」，「あー、そうそうそうそうそうそう」，「あーあー、はいはいはい」，「うーん、そうそう」，「うーん、はいはい」も観察された。

4.3.「～，まあ」

本節では，「まあ」が含まれる二連鎖感動詞類を観察することによって，「まあ」がどのような認知的な特徴を持っているのかについて検討する。まず，「あー、まあね」について考察する[10]。(7)を見られたい。

(7)

1JF057 〈でもね〉{〉}、“じゃんってよく言う”って言われる。
2JF058 それなんか〈別に、も〉{〈}，，
3JF057 〈じゃーんじゃーん〉{〉}じゃーん〈笑いながら〉。
4JF058 方言とかいう、レベルじゃなくない?。
5JF057 うーん。
6JF058 それだったら、あたしも。
7JF057 そうだよね。
8JF058 なんか、口癖じゃん、むしろ〈笑い〉。
9JF057 〈確かにね〉{〈}。
10JF058 〈埼玉県民〉{〉}共通の口癖。
11JF057 あー、まあね。
12JF058 〈うんー〉{〈}。

(7)では，11JF057 に二連鎖感動詞類「あー、まあね」が現れている。前述したように，前項の「あー」の発話時点で，発話者 JF057 は，直前の命題「埼玉県民共通の口癖」の真偽の検討を行っている。

しかし，後項の「まあね」はどのような機能を持っているのだろうか。冨樫(2002a:15)は，「「まあ」の本質的機能は「処理過程の曖昧性を標示する」」と記している。ここで言う「処理過程の曖昧性を標示する」とは，“中途半端”な判断（あるいは，真偽判断の保留）を行っていると考えてよいだろう。おそらく，「まあ」の発話時に，発話者は直前の命題について真偽判断の保留を行っている。要するに，ここでは，「まあ」の発話時に，発話者 JF057 が，直前の命題である「埼玉県民共通の口癖」について真偽判断の保留を行っていると考えられる。

また，同様の働きとして，「あー、まあ」も観察された。

5. 二連鎖感動詞類に関する仮説

第 4 節では，BTSJ コーパスから抽出した談話データに出現した二連鎖感動詞類について，それを構成する前項と後項の要素が，認知的にどのような機能を担っているのかについて考察した。その結果，二連鎖感動詞類の発話時に，発話者は直前の命題に対して，「アクセス」，「真偽の検討」，「真偽判断の保留」，「真偽判断の確定」などを行っている認知過程が観察できた。これらの認知過程について，劉・有元（近刊）では，以下の(8)のような 4 つの認知プロセスが作用していると仮定している[11]。

(8)

a. A 群：発話時に，発話者が直前の命題に対するアクセスを行う。
b. B 群：発話時に，発話者が直前の命題に対する真偽の検討を行う。
c. C 群：発話時に，発話者が直前の命題に対して真偽判断を保留する。
d. D 群：発話時に，発話者が直前の命題に対して真偽判断を確定する。

(8)に示したように，劉・有元（近刊）では，4 つの認知プロセスを，それぞれ「A 群」「B 群」「C 群」「D 群」と呼んでいる。即ち，日本語の自然談話に現れる二連鎖感動詞類は，流れている認知プロセスから 4 種類に分けることができると仮定している。

第 4 節の分析を通して，本稿で分析対象とした二連鎖感動詞類は，(8)と同様に，4 つの群に分類できることが判明した。

また，表 1 に示した 23 本の談話データに出現した二連鎖感動詞類の前項と後項が，それぞれ属している群と，その統語的な順序を表 3 に示す。

表 3 に見る通り，A 群，B 群の感動詞類は前項に位置し，C 群，D 群の感動詞類は後項に位置している。組み合わせとしては「A 群－D 群」，「B 群－C 群」，「B 群－D 群」の二連鎖感動詞類が現れている。

しかし，「A 群－B 群」，「A 群－C 群」，「C 群－D 群」の二連鎖感動詞類の組み合わせは現れていない。おそらく，命題にアクセスする（A 群）時点から，命題に対して真偽の検討を行う（B 群）時点まで，わずかな時間しかないため，発話者の認知がことばに反映されない可能性がある。また，C 群の真偽判断の保留と D 群の真偽判断の確定は 2 つの認知プロセスであるが，「真偽判断を下す」という 1 つの認知プロセスにまとめられる可能性もある。従って，A 群－B 群，A

群－C 群，C 群－D 群のような組み合わせが現れる可能性は低いであろう。

表 3　分析対象データの二連鎖感動詞類の統語的順序

A群	B群	C群	D群
あ			うん
あ			うんうん
あ			うんうんうん
あ			うんうんうんうん
あ			そう
あ			そうそう
あ			そうそうそう
あ			そうそうそうそうそう
あっ			そう
あっ			そうそうそうそうそうそうそう
	あー	まあ	
	あー	まあね	
	あー		うん
	あー		うんうん
	あー		うんうんうんうん
	あー		そう
	あー		そうそうそうそう
	あー		そうそうそうそうそうそう
	あーあー		はいはいはい
	うーん		うん
	うーん		そうそう
	うーん		はいはい
前項		後項	

一方，BTSJ コーパスには現れていない二連鎖感動詞類の組み合わせ，たとえば，「あ，うーん」（A 群－B 群），「あ，まあ」（A 群－C 群），「まあ，うん」（C 群－D 群）は，現れていないからといって文法的に不自然であるとは言えない。おそらく二連鎖感動詞類は，すべての組み合わせが許されるだろう。

以上から，①感動詞類は，その認知的な機能から 4 種類に分けられること，②二連鎖感動詞類は，4 種類のうちの任意の 2 種類が組み合わさったものであること，③二連鎖感動詞類の組み合わせには統語的な順序が存在する，と結論付けられる。この結論は，まさに劉・有元（近刊）が提示したことと一致しているのである。従って，劉・有元（近刊）の仮説は，本稿で考察した二連鎖感動詞類に関する分析の結果によって，支持される。

さらに，劉・有元（近刊）では，①，②，③を前提として，次の(9)のような「認知ユニット」も仮定している。

(9)

認知ユニット：

談話（会話）において二連鎖感動詞類が単独で 1 ターンに現れる場合，そこで発話者が行う複数の認知プロセスの順序付けられた集合体を「認知ユニット」と呼ぶ。

ここでは，「二連鎖感動詞類が単独で 1 ターンに現れる場合」に限定しているが，このような環境では(10)のような「真偽判断に関する認知ユニット」を仮定することになっている（記号【　】は一つの認知ユニットを示す）。

(10)

真偽判断に関する認知ユニット：

【アクセス（A 群）→真偽の検討（B 群）→真偽判断の保留（C 群）→真偽判断の確定（D 群）】

言うまでもないが，(10)は認知ユニットの中の一種であるので，他の種類の認知ユニットも想定できる。また，二連鎖感動詞類だけではなく，普通の事象を含んだ文，たとえば「今日は雨が降る」という文にも何らかの認知ユニットを仮定できるかもしれない。「真偽判断に関する認知ユニット」以外のものについては，今後の課題とする。

問題は，劉・有元（近刊）で示した仮説が未だ弱いということである。従って，次節では，その仮説を支持するさらなる証拠を求めることにする。

6. 仮説の検証

本節では，群や認知ユニットといった概念の妥当性について，別の現象から検証してみよう。

6.1. 群の検証：反復

二連鎖感動詞類を観察すると，感動詞類の反復現象が見られる。以下，(3)のデータを(11)に再掲する。

(11)

1JF043　まだ「地名」の時〈笑いながら〉。
2JF044　暑かったよね〈2 人で軽く笑う〉。
3JF044　〈笑い〉なんかごちそうになったよ。
4JF043　〈笑い〉そうだっけ。
5JF043　ファミレスかなんかで〈2 人笑い〉。
6JF044　ジョナサンで〈笑いながら〉。
7JF043　あ、そうそう〈笑いながら〉。
8JF044　〈笑い〉。
9JF043　でもなんか、あれっきりになっちゃったな。

(11)では，7JF043 に二連鎖感動詞類「あ、そうそう」が現れている。前項の「あ」はA群である。後項の「そうそう」はD群の「そう」の反復である。

また，前項・後項ともに反復している二連鎖感動詞類も見られる。(12)を見られたい。

(12)

1JF096 泣き寝入りすると、なめられる??。
2JF097 うん。
3JF096 なんか、“あいつ、何、何しても何も言わねーじゃん”って(あー)なめられても困るって。
4JF097 あー。
5JF096 でも、最初だから言わなかったらしいんだ。
6JF097 あー。
7JF096 たらなんか、けっこう何??、それで慕われたっていうか、絶対親に言われると思ってたらしくて、その、彼は、殴った<彼は>{<}。
8JF097 <あーあー>{>}、はいはいはい。
9JF096 で、でも、お兄ちゃんは、殴った後も、親に言わなかったけど、その後ほっとく訳じゃなくて、殴られたからビビる訳じゃなくて,,

(12)では 8JF097 に二連鎖感動詞類「あーあー、はいはいはい」が現れている。これは，B 群の「あー」と D 群の「はい」が両方とも反復される形式である。

次は，同じ群に属する二連鎖感動詞類も観察される。(13)に言語データを挙げる。

(13)

1JF096 小中学校で、こう、集団の、結束みたいのが、な、養われてー,,
2JF097 うんうん。
3JF096 高校大学ぐらいで個人の自立みたいになってくる、<なってくる>{<}。
4JF097 <もうなんか>{>}それで、全然それが普通なんですけどね、今は。
5JF096 うん、義務教育までじゃない?。
6JF097 うん。
7JF096 団結力が、大事なのは=。
8JF097 =もうなんか、全然、先生もあんま、関係ないっていうか、ほんと勉強教えてもらうって感じですもんね。
9JF096 うん、そうそうそうそう。
10JF097 うん。

(13)では 9JF096 に二連鎖感動詞類「うん、そうそうそうそう」が現れている。「うん」と「そう」はいずれも直前の 8JF097 の命題に対して，肯定の真偽判断を下している D 群同士である。

以上より，ある群に属する一つの感動詞類が反復されるだけでなく，同じ群に属する別の形式の感動詞類も反復していることが分かる。このことから，「同じ群に属する感動詞類は反復できる」と仮定することができる。しかも，この仮説は，群という概念を設定したことによって簡潔に記述できるものであり，ここに群の存在意義があると考えられる。

6.2. 認知ユニットの検証：リセット

本節では，真偽判断に関する認知ユニットが途中で停止する場合を観察する。(14)の談話データを見られたい。

(14)

1JF097 ダンスやったん<ですか?>{<}。
2JF096 <やった>{>}やったんだよ。
3JF096 女子全校、あ、何つーの?、全校っつーか、赤、白、青黄色<みたいな>{<}。
4JF097 <あー>{>}。
5JF096 <全##みたいな>{<}。
6JF097 <色んなのが>{>}あるんですか。
7JF096 あ、え?=。
8JF097 =うちら損なんですよ。

(14)では，7JF096 に「あ，え?」が現れている。前項の「あ」はA群に属し，直前の命題「色んなのがある」にアクセスしている。後項の上昇調の「え?」は，真偽判断をしているわけではなく，直前の命題を受け入れようとする時点で，疑問が起こることを表す。そして，これによって，発話者 JF096 は真偽判断の認知ユニットを中断することになる。即ち，認知ユニットのリセットである。

以上より，「え?」のような真偽判断に関する認知ユニットの途中に登場し，それまでの認知ユニットをリセットする役割を持っている感動詞類（「リセット感動詞類」と呼ぶ）が存在していることが分かる。このことから，「「え?」のようなリセット感動詞類は，いずれの認知ユニットにも含まれない独立した認知プロ

セスを持っている」と仮定できる。しかも，ここでも認知ユニットの存在意義が認められる。

7. おわりに

本節では，BTSJ コーパスの二連鎖感動詞類に関する考察を通して，次のような結論を導き出すことができる。

- ✧ 二連鎖感動詞類は，4 つの任意出現の認知プロセス，すなわち，アクセス（A 群），真偽の検討（B 群），真偽判断の保留（C 群），真偽判断の確定（D 群）によって構成されている。
- ✧ 4 つの認知プロセスは，「アクセス→真偽の検討→真偽判断の保留→真偽判断の確定」というように統語的順序が決まっている。このように順序付けられた認知プロセスは，全体として 1 つの認知ユニット（ここでは「真偽判断に関する認知ユニット」）を形成している。
- ✧ 2 種類（①同じ形式の反復，②同じ群同士の反復）の反復現象が観察される。
- ✧ 真偽判断の途中で，認知ユニットを中断するリセット感動詞類を仮定することができる。

本稿では，従来の研究と異なり，BTSJ コーパスの自然談話を用いることにより，二連鎖感動詞類について，劉・有元（近刊）が提出した「認知プロセス」（群）と「認知ユニット」の仮説が，より多くの言語現象に合致することをここまで論じてきた。

しかし，以下に挙げるように，問題点や今後の課題がいくつか残っている。

- ✧ 本稿では，BTSJ コーパスのデータを利用し，若年層の女性友人同士の自然談話を観察した。インフォーマントの地域，年齢，性別などの属性の影響についても調査すべきである。
- ✧ イントネーション等の音声的な情報が本稿での議論にどのように影響を与えるのか，問題が残る。しかし，BTSJ コーパスの中から本稿が対象としたものは，音声がないデータであったため，音声の確認ができなかった。
- ✧ 本稿では，1 ターンに独立して現れる二連鎖感動詞類について記述した。従って，1 ターン内で，二連鎖感動詞類の直後に何らかの要素が来る場合の考察はまだ行っていない。
- ✧ 反復においては多くの問題がある。たとえば，反復の回数は感動詞類の種類と関係があるのかどうか，なぜ反復しているのか，現時点では明らかになっていない。

今後，データの数を増やしつつ，様々な角度から綿密に分析し，仮説を検証する。そのうえで，感動詞類の認知プロセスに関する理論を構築していきたい。

文　　献

［1］ 宇佐美まゆみ(2015)「基本的な文字化の原則 2015 年改訂版」 国立国語研究所 機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」 サブ・プロジェクト 「日本語学習者の日本語使用の解明」(リーダー：宇佐美まゆみ).

［2］ 串田秀也(2005)「「いや」のコミュニケーション学」『月刊言語』34(11) pp.44-51.

［3］ 串田秀也・林誠(2015)「WH 質問への抵抗　感動詞「いや」の相互行為上の働き」友定賢治(編)『感動詞の言語学』 pp.169-211 ひつじ書房.

［4］ 小出慶一(2011)「「いや」の否定性と談話での機能」『埼玉大学紀要』47-2 pp.145-156.

［5］ 定延利之(2002)「「うん」と「そう」に意味はあるか」定延利之(編)『「うん」と「そう」の言語学』 pp.75-112 ひつじ書房.

［6］ 定延利之(2005)「「表す」感動詞から「する」感動詞へ」『月刊言語』34(11) pp.33-39.

［7］ 定延利之(2007)「話し手は言語で感情・評価・態度を表して目的を達するか？―日常の音声コミュニケーションから見えてくること―」『自然言語処理』14(3) pp.3-15.

［8］ 定延利之(2010)「会話においてフィラーを発するということ」『音声研究』14(3) pp.27-39.

［9］ 定延利之(2015)「感動詞と内部状態の結びつきの明確化に向けて」友定賢治(編)『感動詞の言語学』 pp.3-14 ひつじ書房.

［10］定延利之(編)(2002)『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房.

［11］定延利之・田窪行則(1995)「談話における心的操作モニター機構－心的操作標識「ええと」「あのー」－」『言語研究』108 pp.74-93.

［12］瀬戸賢一・山添秀剛・小田望(2017)『認知言語学演習③解いて学ぶ　認知構文論』大修館書店.

［13］田窪行則(1995)「音声言語の言語学的モデルをめざして ―音声対話管理標識を中心に―」『情報処理』 36(11) pp.1020-1026.

［14］田窪行則(2005)「感動詞の言語学的位置づけ」『月刊言語』34(11) pp.14-21.

［15］田窪行則・金水敏(1997)「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』 pp.257-279.

［16］辻幸夫（編）(2002)『認知言語学キーワード事典』研究社.
［17］冨樫純一(2001)「情報の獲得を示す談話標識について」『筑波日本語研究』(6) pp. 19-41.
［18］冨樫純一(2002a)「談話標識「まあ」について」『筑波日本語研究』(7) pp.15-31.
［19］冨樫純一(2002b)「「はい」と「うん」の関係をめぐって」定延利之（編）『「うん」と「そう」の言語学』 pp.127-157 ひつじ書房.
［20］友定賢治(編)(2015)『感動詞の言語学』ひつじ書房.
［21］籾山洋介(2014)『日本語研究のための認知言語学』研究社.
［22］森山卓郎(2015)「感動詞と応答　新情報との遭遇を中心に」友定賢治（編）『感動詞の言語学』 pp.53-81 ひつじ書房.
［23］吉村公弘(2002)「アスペクト(aspect)」辻幸夫(編)『認知言語学キーワード事典』p.2 研究社.
［24］劉伝霞・有元光彦（近刊）「日本語談話の二連鎖感動詞類に関する予備的考察」友定賢治（編）『感動詞研究の展開』ひつじ書房.

1　田窪(2005:16)では，「感動詞には、語彙項目として統語的、意味的な特徴づけを持つものが転用されて使われていると見られる語彙的感動詞と、いいよどみ的な発声と見なせるものがある」となっている。近年，「いいよどみ的な発声と見なせるもの」は，「フィラー(filler)」と呼ばれることも多い(cf. 田窪 2005，定延 2010)。
2　「ターン」(turn)とは，談話における，発話権をもっている一人の発話者が話し始めてから話し終えるまでの発話のことである。
3　籾山(2014:1)は，「認知」について，「「人間が、身体を基盤として、頭や心によって行う営み」、「人間が行う知的・感性的営み」」と述べている。
今のところ，感動詞類に関する研究は，個別的・意味的なものは多々あるが，認知的な観点から行われた研究はあまり見られない。特に，二連鎖感動詞類に言及したものはそれほどないようである。
4　筆者は，2017 年 4 月に日本語母語話者同士が日本語で話している談話を調査した。収集した日本語の自然談話データに現れた二連鎖感動詞類を分析的に捉え，「群」「認知ユニット」という仮説を提案した。劉・有元（近刊）を参照されたい。
5　本稿で分析対象としたのは，音声がないデータである。
6　本稿の目的には，ある特定の言語現象に潜んでいる普遍的なルールや法則性を導き出すという点がある。筆者がこれまで観察した BTSJ コーパスの談話では，話者間の親疎関係，上下関係により，二連鎖感動詞類の使用が多少異なっていた。それは個人レベルの言語運用(linguistic performance)の問題であるため，本稿が目指す言語能力(linguistic competence)の問題ではない。従って，インフォーマントの属性が二連鎖感動詞類にどのように影響を与えるかについては，今後の課題とする。
7　「アクセス」というのは，どの程度の時間や頻度で行われているか，もしくはアクセスではなくバッファへの蓄積と考えるかどうかについては，現時点では保留する。
「バッファ」とは「情報の逐次的な処理を行う作業領域である」(cf. 冨樫純一 2001:24)。
8　「そうそう」は「そう」の反復形と考える。なお，反復形については第 6.1 節を参照されたい。
9　宇佐美(2015:10）では，「「会社名」や「大学名」などの組織の名称、話者の出身県を含む「地名」等の記述に関して、話者のプライバシーに関わる場合は、「地名 1」のように伏せて記す」となっている。
10　本稿では，感動詞類の「まあ」の直後に終助詞の「ね」が来る場合に関して，「まあ」と同様，1 つの感動詞類として扱う。終助詞の「ね」「よ」などは，感動詞類の直後によく現れるが，感動詞類に与える影響については，現時点では保留する。
11　吉村(2002:2)は，「プロセスとは，時間の経過に焦点を当てて状況変化を描くときの叙述の 1 つのタイプである」と述べている。

〈著者略歴〉
劉　伝霞（りゅう　でんか）
2015 年曲阜師範大学卒業，2018 年山口大学大学院教育学研究科修士課程修了．現在山口大学大学院東アジア研究科博士課程在学.